

< 学術論文 >

「準備」と「用意」の使い分けについて

—— 名詞用法と漢語サ変動詞用法を例に ——

安 蓉 (An Rong)

東亜大学 総合学術研究科 人間科学専攻
中国・咸陽師範学院
anrong16@hotmail.com

《要 旨》

日本語教育において、「準備」と「用意」の2つの類義語は共に旧日本語能力試験では3級レベルに位置づけられており、基本的に中級前半段階で導入される。そのため、学習者は両者を同じ時期に学習する可能性が高く、その使い分けを巡っては混乱を招く恐れがある。また、辞書の記述においては「準備」と「用意」の記述が循環的意味記述になっている部分があり、日本語学習者が必要とする使い分けに関する情報が十分に提示されているとは言えない現状がある。

そこで本稿では、「準備」と「用意」の使い分け規則を明らかにするために、『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』と『筑波ウェブコーパス (Tsukuba Web Corpus: TWC)』を組み合わせ利用し、それぞれについて意味的特徴と話題的特徴の観点から分析を試みた。その結果、まず意味的特徴として、①「準備」は名詞用法を中心に用いられているのに対して、「用意」は漢語サ変動詞用法を中心に用いられていること、②名詞用法において、「準備」は「ノ格」にデキゴト名詞を取る傾向があるのに対して、「用意」は「ノ格」にモノ名詞を取る傾向があること、そして、③漢語サ変動詞用法において、「準備」と「用意」はいずれも「ヲ格」にモノ名詞を取る傾向があることの3点が明らかになった。また、話題的特徴については、①「準備」は「アルバイト」の話題でよく使われること、②「用意」は幅広い話題で用いられること、の2点を明らかにした。

キーワード：準備, 用意, 名詞用法, 漢語サ変動詞用法, 使い分け

《目 次》

1. 問題の所在
2. 先行研究
 - 2.1 日本における先行研究
 - 2.2 中国における先行研究
 - 2.3 研究課題の設定
3. 使用コーパスと検索ツール
4. J-TOCC と TWC における全体的な使用傾向
5. J-TOCC と TWC における「準備」と「用意」の意味的特徴
 - 5.1 名詞用法としてのふるまい
 - 5.1.1 J-TOCC の分析
 - 5.1.2 TWC の分析
 - 5.2 漢語サ変動詞用法としてのふるまい
 - 5.2.1 J-TOCC の分析

5.2.2 TWC の分析
6. J-TOCC における「準備」と「用意」の話題的特徴
7. まとめと今後の課題

1. 問題の所在

近年、日本語教育において、類義語の使い分けに関する研究が注目されてきている。久保（2014, p.23）では、「日本語における類義語の使い分けは、日本語学習者が、その学習過程において最も困難に感じるものの一つである」と述べている。また、日本語学の分野においても、白川（2018, p.68）は、「かつて日本語教育のニーズを背景に進展した日本語文法の記述的研究も、今世紀に入る頃から目的を失い閉塞状態が続いている」と述べており、「日本語教育への越境」を可能にする観点として、「類義語研究」を挙げている。それを踏まえ、本稿では、日本語学習者の視点に立ち、ケーススタディとして類義語である「準備」と「用意」の使い分けの規則を明らかにすることを目的とする。

本稿が対象とする「準備」と「用意」の2つの実質語は、共に名詞用法と漢語サ変動詞用法を有しており、「前もって物を整える」（類義語研究会 1991, p.529）という共通する意味を持つ。だが、実際にこの2語を入れ替えても問題ない場合もあれば、やや座りが悪くなる場合もある。

- (1) a. 妹の誕生日プレゼントにドレスを準備しました。
b. 妹の誕生日プレゼントにドレスを用意しました。

(中国人日本語学習者 筆者収集)

- (2) a. オリンピックの用意は進んでいますか。
b. オリンピックの準備は進んでいますか。

(中国人日本語学習者 筆者収集)

上記の(1a)と(2a)は中国人学習者により作成された例文である。これらの例文は日本語として不自然であるとまでは言えないものの、日本語話者の中には座りが悪いと感じる者もいる。

国際交流基金・財団法人日本国際教育協会（2002）（編）『日本語能力試験出題基準 改定版』によると、「準備」と「用意」は3級レベルの語として位置づけられている。また、日本語学習者支援グループ（2015）の『日本語教育語彙表 Ver.2.8.3』でも、中級前半段階で導入される点で二つの語は共通している。つまり、学習者は同じ時期に両者を学習する可能性が高く、両者の使い分けを巡っては混乱を招く恐れがある。特に、中国語話者にとっては「準備」と「用意」は同じ中国語形式「准备」と対応しているため、その使い分けに関心が向く可能性が高い。

一方、日本語辞書においては「準備」を説明するときに「用意」が使われ、「用意」を説明するときに「準備」が使われるという循環的意味記述になっている部分がある。実際、筆者が確認した9冊の日本語辞書のうち、8冊⁽¹⁾においてこのような記述が確認された。以下例として新村出（2008）（編）『広辞苑 第六版』の記述を挙げる。

「準備」

ある事をするのに必要な物や態勢を整えること。用意。支度。

(p.1360)

「用意」

- ① 意を用いること。心づかい。注意。用心。
- ② 準備。したく。
- ③ 競技・競走などの開始の構えを整えさせる合図の声。

(p.2883)

このように、日本語辞書からは、本稿が対象とする「準備」と「用意」は意味的関連性があることが窺えるが、実際に日本語学習者がそれらを使い分けるための情報が十分に提示されているとは言えない現状がある。

そこで、本稿ではこのような問題意識のもと、日本語の大規模データベースである『日本語話題別会話コーパス』と『筑波ウェブコーパス』を組み合わせて利用し、「準備」と「用意」が名詞用法、及び漢語サ変動詞用法において、どのような特徴が見られるのかを考察することで、両者の使い分け規則の構築を試みる。

2. 先行研究

「準備」と「用意」の使い分けに関する先行研究は日本国内だけでなく、日本語学習者数が最も多く（国際交流基金 2021 年度海外日本語教育機関調査による）、また漢字を用いる国である中国においても確認される。

日本においては、「準備」と「用意」の使い分けに関する記述は基本的に類義語辞書に集中している。それに対して、中国においては、両者の使い分けに関する研究が多数確認される。これは先に述べたように、中国語においては「準備」と「用意」が共に「准备」という一つの形式に対応していることから、中国語を母語とする学習者にとって両者の使い分けが困難であるためだと考えられる。それゆえ、中国における先行研究からは、「準備」と「用意」の使い分けの問題を考えるにあたり、有益な手がかりが得られる可能性が高いことが予想される。

そこで、本節では「準備」と「用意」の使い分けについて日本と中国から6つの先行研究を取り上げ、それぞれの研究を吟味する。

2.1 日本における先行研究

「準備」と「用意」は類義語辞書において、基本的に類義語項目として立てられている。まず、徳川・宮島（1972）（編）『類義語辞典』の記述を確認する。この辞書では、「準備」と「用意」について、大体は同じことを表すが、多少ニュアンスの違いがあると説明されている（同、p.405）。その違いとして以下の（3）のような指摘がある。

- (3) 「用意」は一般に物質的な場合に使われることが多いのに対して、「準備」は物質的でなく精神的・肉体的な訓練の場合に使われることが多いのである。

この辞書では、「物質的か精神的・肉体的か」を問題にしている。しかし、「物質的か精神的・肉体的か」という一つの尺度で「準備」と「用意」を使い分けるのは十分ではない。例えば、「朝食」という語は「物質的か精神的・肉体的か」という基準で判定が難しいと言える。具体的には、「朝食を食べる」というコロケーションにおいては、「朝食」は物質的なものとしか解釈ができない。しかし、「朝食を楽しむ」というコロケーションにおいては、「朝食」は物質的なものである場合もあれば、朝食を食べる行為、つまり、肉体的な行為であるとも解釈できる。それゆえに、「朝食」

のような、「物質的」と「精神的・肉体的」の両方と解釈できる場合においては、「物質的か精神的・肉体的か」という一つの尺度では「準備」と「用意」を使い分けることができない。

次に、類義語研究会（1991）『似た言葉使い分け辞典』の記述を確認する。この辞書において、「準備」は類義語として、「用意」とともに紹介されている。また、その他の類義語として「支度」「手配」「手筈」が並んでおり、ここでも、「準備」と「用意」の意味的関連性が窺える。

この辞書においては、「準備」と「用意」の共通点としては「前もって物を整えることを言う」と記載されている（同、p.529）。それに対して、違いとしては次の2点が指摘されている。

- (4) 「用意」に比べて「準備」は、その期間の長短に幅があり、より長期的な様々な事柄を意味する傾向が強い。その一方で、「用意」はあることを行う直前の具体的な物事を意味する場合が多い。
- (5) 体の調子を整える意に「準備」が用いられることはあるが、「用意」は使われない。

上記のように、使い分けのポイントは「期間の長短」と「体の調子に関して使えるか否か」であると解説されている。しかし、「頭金を用意する」や「カリキュラムを用意する」等「期間の長短」がはっきり判断できない言い方も見られるため、「期間の長短」で使い分けることが適切か否かについては再検証する必要がある。

最後に、田・泉原・金（編）（1998）『類義語使い分け辞典』の記述を確認する。この辞典では、「準備」と「用意」は類義語の項目として立てられており（同、p.403）、他の類義語の表現として「支度」「手筈」「備え」が並んでいる。そこでは、「準備」と「用意」の使い分けのポイントとして、次の2点が紹介されている。

- (6) 「準備」は比較的大規模な物事を、長期にわたって段階的に進めることである。
- (7) 「用意」は準備段階を終えて、すぐ始められる環境・状態を整えることである。

以上、類義語辞書における記述を確認してきた。その結果、「準備」と「用意」の使い分けに関する記述がいくつか見られた。具体的には、①体の調子を整える場合に「準備」が用いられるが、「用意」は用いられない。②「準備」は長期にわたり、大規模の物事を段階的に整えるという意味合いが強い。③「用意」はある段階を終えて、すぐ始められるような環境や状態を整え、長時間はかからない意味合いが強いという3点である。

しかし、実際には先述した「頭金を用意する」のような「期間の長短」という要因で判断できない言い方や、「朝食の準備」のような「物質的か精神的・肉体的か」という要因で判定し難い言い方等も見られる。そのため、上記のような要因が「準備」と「用意」の使い分けに資する本質的なものであるかどうかには疑問が残る。

2.2 中国における先行研究

この節では、薛・連（2010）、傅（2011）、陶（2011）の研究を紹介する。

まず、薛・連（2010）は、作例を用いて「準備」と「用意」の使い分けをまとめている。具体的には、①「準備」は過程を強調しているのに対し、「用意」は結果を強調している（用例（8）（9））、②「準備」は肉体的・精神的な場合に使われる傾向があるが、「用意」は物質的な場合だけに用いられる（用例（10）（11）（12））、③「準備」は長時間かかるのに対して、「用意」は短時間で済む（用例（13））と指摘されている。

- (8) 会議の準備を進める。(？用意)
 (9) 用意の品を取り出す。(？準備)
 (10) 雨の多い時だから、いつでも雨具の用意をしなくちゃいけない。(？準備)
 (11) いざという時の心の準備をする。(？用意)
 (12) 水泳を始める前に準備運動をする。(？用意)
 (13) 「よい！ドン！」(？準備)

(いずれも 薛・連 2010, p.29)

なお、薛・連(2010)は基本的に2.1で紹介した類義語辞書と同様の趣旨の説明を、用例と共に説明している。しかしながら、薛・連(2010)が指摘している「長時間・短時間」と「過程か結果か」の2つの要因は時間が長いゆえに過程に重点を置くというようにお互いに影響を与えていることが窺える。そのように考えた場合、どちらがより本質的な要因になるかが不明である。また、もし2つの要因が同程度に重要であれば、どんな時に「長時間・短時間」という要因が優先され、どんな時に「過程か結果か」という要因が優先されるのかについて、説明されなければ十分な使い分け規則とは言えない。また、「準備」と「用意」の使用傾向についても述べられているが、著者の主観に基づいた部分が多いのも問題である。語の使用傾向を見るのであればコーパスを利用して量的に検証することが求められる。

次に、傅(2011)の研究を見ていく。傅(2011)は「準備」と「用意」を名詞用法と漢語サ変動詞用法の2つの観点に分けて分析を行っている。

まず、名詞用法においては、「ノ格」で表示される名詞に着目して、「準備」は大規模なことを整える過程を強調しているのに対して、「用意」は結果を強調していると述べている(用例(14)(15))。また、「準備」は精神的・肉体的なことに使われているのに対して、「用意」は物質的なことに使用されていると主張している(用例(16)(17))。

一方、漢語サ変動詞用法においては、「ヲ格」で表示される名詞に着目して、「準備する」は長時間がかかる場合に使われ、「用意する」は長時間と短時間の両方に使われていると指摘している(用例(18)(19)、○は日本語として自然であることを表す)。

- (14) オリンピックの準備をする。
 (15) 用意の品を取り出す。
 (16) 今年から学校オリジナルの準備体操になりました。
 (17) まさかの時の用意に多少の貯蓄はしていた。
 (18) 今回は、お料理を用意するので、完全予約制でお願いします。(○準備する)
 (19) 今から書き取り練習をしますから、みなさん、ノートを用意してください。

(いずれも傅 2011, p.100)

傅(2011)の研究において優れている点は、用法別に「準備」と「用意」の特徴を探っている点である。そして、傅(2011)の研究からは、名詞用法と漢語サ変動詞用法において、「準備」と「用意」の使い分けに関わる要因が異なっていることが示唆されている。そのため、本稿でも傅(2011)の分析観点を援用し、名詞用法と漢語サ変動詞用法の2つの観点から両者の使用実態の分析を行うことにする。

一方、傅(2011)においては、両者が名詞用法として使用される場合は、基本的に薛・連(2010)の主張を認めている。また、「長時間か短時間か」「過程か結果か」「精神的か肉体的か物質的か」に着目していること以外は、田・泉原・金(編)(1998)『類義語使い分け辞典』と同様に「規模の

「準備」と「用意」の使い分けについて

大きさ」という観点で両者の使い分けを説明している。しかしながら、「用意」は漢語サ変動詞用法として使われる際、長時間と短時間の両方に使えるという主張は、薛・連（2010）の主張と対立しており、どちらの主張が正しいのかという点で疑問が残る。

最後に、先行研究の中で唯一コーパスを利用した陶（2011）の研究を見ていく。陶（2011）は『日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』（以下、BCCWJ）を利用し、傅（2011）と同様、「準備」と「用意」を名詞用法と漢語サ変動詞用法に分けた上で、名詞用法における「ノ格」と漢語サ変動詞用法における「ヲ格」で表示された名詞に着目し、両者の特徴をまとめている。

考察の結果、①漢語サ変動詞用法においては、「準備する」と「用意する」のヲ格名詞が置き換え可能である、②名詞用法においては、「準備」は過程を強調し、長時間がかかるのに対して、「用意」は結果を強調しているので、緊迫感があると指摘している。このことから、陶（2011）においても、「時間の長短」と「過程か結果か」に着目していることがわかる。

一方で、2023年10月現在で中納言の検索システムを利用して再検証してみると、陶（2011）のデータ数とはかなり差があることから、陶（2011）の研究は再現性の点で問題が残る。特に「用意」については、名詞用法の用例数は5627例、漢語サ変動詞用法の用例数は593例があると指摘されているが、2023年10月現在検索してみると、名詞用法の用例数は1553例、漢語サ変動詞用法の用例数は5061例であり、陶（2011）のデータ数とは用法の出現率が逆転しており、再検証する必要がある。

2.3 研究課題の設定

2.1節と2.2節で「準備」と「用意」の先行研究を概観、検討を行った。

検討の結果、まず、研究手法については語の使用傾向、また類義語の問題を語る上では、コーパスを利用した数量的な方法が最も適した方法であると考えられる⁽²⁾。しかし、先行研究では基本的に作例を用いて分析を行っており、コーパスを利用した研究は陶（2011）のみである。またその陶（2011）においても再現性の問題を抱えている。そのため、本稿では複数のコーパスを利用して、学習者の運用に資することを目的とし、「準備」と「用意」の使い分け規則を明らかにする。

次に、先行研究が指摘している「準備」と「用意」の使い分け規則について述べる。先行研究において、2語の使い分け規則に関しては、次の表1のようにまとめられる。

表1 先行研究における「準備」と「用意」の使い分けに関する記述

先行研究 対象語		徳川・ 宮島 (1972)	類義語 研究会 (1991)	田・ 泉原・金 (1998)	薛・連 (2010)	傅 (2011)	陶 (2011)
準備	長時間		✓	✓	✓	✓ (漢語サ 変動詞)	✓ (名詞)
	大規模			✓		✓ (名詞)	
	過程				✓	✓ (名詞)	✓ (名詞)
	肉体的・ 精神的	✓	✓		✓	✓ (名詞)	
用意	短時間		✓	✓	✓		✓ (名詞)
	長時間・ 短時間					✓ (漢語サ 変動詞)	
	結果				✓	✓ (名詞)	✓ (名詞)
	物質的	✓	✓		✓	✓ (名詞)	

表1からわかることは次の2点である。

- ① 先行研究において、「準備」と「用意」の使い分けについて、名詞用法と漢語サ変動詞用法に分けて考察を行っている。

①について、傅（2011）と陶（2011）が指摘しているように、「準備」と「用意」の2語は共に名詞用法と漢語サ変動詞用法を持つ点で共通している。また、用法毎にそれぞれ運用実態が異なっており、各々の意味的特徴も異なってくるのが予想される。それに加えて、先行研究においては、いずれも名詞用法の「ノ格」で表示される名詞と漢語サ変動詞用法の「ヲ格」で表示される名詞に着目している点も共通している。

以上を踏まえると、「準備」と「用意」の使い分けを探る上では、名詞用法と漢語サ変動詞用法に用法を分けた上で、それぞれと共起する名詞に着目することが有効であると考えられる。そのため、本稿でも名詞用法と漢語サ変動詞用法に分けて考察を行い、名詞用法において「ノ格」で表示される名詞と漢語サ変動詞用法において「ヲ格」で表示される名詞に着目して分析を行うことにする。

- ② 先行研究において、「準備」と「用意」の意味的特徴に関しては、基本的に「時間の長さ」「規模の大きさ」「過程か結果か」及び「肉体的か精神的か物質的か」の4つの要因を重視している。

先行研究からは、②に挙げたように使い分けに関して4つの要因を抽出することができる。しかし、問題点として主張が対立している箇所が見られる。

例えば、「時間の長さ」について、傅（2011）は「時間の長短」を使い分けの要因として挙げている。しかし、漢語サ変動詞用法において「用意」は長時間と短時間の両方に使えるという主張は、他の先行研究と対立している。また、用法別の分析においても、「長時間」という「準備」の特徴について、傅（2011）は漢語サ変動詞用法として使用される際の特徴であると主張しているのに対し、陶（2011）は名詞用法として使用される時の特徴であると主張している。

それに加えて、「規模の大きさ」「時間の長さ」「過程か結果か」という3つの要因はお互いに関わり合っていることが示唆されるものの、この中でどれがより本質的な要因になるのかが不明である。

以上のように、先行研究において「準備」と「用意」の使い分けについては多少記述がなされているが、学習者の運用に有益な情報になっているとは言えない。そのため、「準備」と「用意」の使い分け規則を構築するためには、学習者にとって有益な使い分けの基準を見出す必要があると言える。さらに、語の使い分けを考える上で、近年は「話題」という概念が注目されてきている。そのため、本稿では、「準備」と「用意」の使い分け規則について「話題」の観点も加え、実際の運用に繋がる記述を試みる。

以上を踏まえた具体的な課題（リサーチクエスチョン：RQ）は以下の通りである。

- RQ1：名詞用法における「準備」と「用意」について、「ノ格」にどのような名詞を取るのか、コーパスを用いた量的な観点から意味的特徴を明らかにする。
- RQ2：漢語サ変動詞用法における「準備」と「用意」について、「ヲ格」にどのような名詞を取るのか、コーパスを用いた量的な観点から意味的特徴を明らかにする。
- RQ3：「準備」と「用意」において、特定の話題に出現しやすい傾向はあるのか、J-TOCCを用いて、両者の話題的特徴を明らかにする。

「準備」と「用意」の使い分けについて

3. 使用コーパスと検索ツール

この節では、本稿が利用するコーパスと検索ツールを紹介する。本稿では、『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』と『筑波ウェブコーパス (Tsukuba Web Corpus: TWC)』を併用し考察を行う。

まず『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』について、近年、実質語の研究においては「話題」という概念が注目されてきている。橋本 (2018, p.31) では「語彙 (実質語) の学習や教育において重要な観点の一つに、「話題」がある」と述べている。また、コーパスにおいても、中俣尚己氏によって話題が語彙・文法・談話ストラテジーに与える影響を解明するため、『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』 (以下, J-TOCC) が構築され (中俣他 2021), 話題という指標から語彙や文法項目の使い分けが検討できる段階にある (詳細については中俣他 2021 を参照されたい)。

上記の流れを踏まえ、本稿では J-TOCC を利用して、研究の対象である「準備」と「用意」の話題的特徴を明らかにすることにした。

一方で、J-TOCC は収録語数が他のコーパスと比べて少ないという特徴がある。そのため、それを補う目的で J-TOCC の分析結果を、日本語のウェブサイトから収集して構築した約 11 億語のコーパスである『筑波ウェブコーパス (Tsukuba Web Corpus: TWC)』 (以下, TWC) の分析結果と比較する。

TWC を調査対象とした理由は、J-TOCC が大学生の会話を収録した話し言葉コーパスであることとの親和性を考慮した結果であり、ウェブコーパスであれば、比較的話し言葉に近い表現が出現しやすいと判断したためである。それに加えて、TWC はウェブコーパスであり、書き言葉としての特性も持ち合わせており、助詞や共起する名詞のデータを得られやすいという特性を持っている。そのため、今回はデータ量の確保と共起関係に着目するという目的を重視し、TWC を採用することにした。

検索には、J-TOCC においては、エディターソフトである「秀丸」ver.9.12 ((有) サイトー企画) を用いた。具体的には、以下の検索条件で grep⁽³⁾ 検索を行った。

「準備」の検索条件：準備

「用意」の検索条件：用意

また、TWC においては、国立国語研究所 (以下、国語研) と Lago 言語研究所が共同開発したコーパス検索システム NINJAL-LWP for TWC (以下, NLT)⁽⁴⁾ を用いた。

検索ツール NLT は、名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示することができ、さらに共起頻度だけでなく、共起関係の強さに関係する統計的な数値 MI スコア (以下, MI) とログダイス (以下, LD) も表示される。本稿では、出現頻度に加え、統計値の中でも最も特徴的なコロケーションが表示される指標の一つとされる MI⁽⁵⁾ に基づいて分析を行う。なお、TWC においては、基本的には MI 降順で頻度 30 以上の条件で検索を行っているが、この条件で十分な用例が得られなかった場合には、頻度 10 以上で検索を行っている。

4. J-TOCC と TWC における「準備」と「用意」の全体的な使用傾向

「準備」と「用意」は名詞用法と漢語サ変動詞用法として使用されている点において共通している。まず、J-TOCC と TWC において、「準備」と「用意」の用法別使用率を確認する。具体的に

は、次の表2の通りである。

表2 J-TOCCとTWCにおける「準備」と「用意」の用法別出現数

コーパス・用法		準備		用意	
		用例数	使用率	用例数	使用率
J-TOCC	名詞用法	31	70%	4	19%
	漢語サ変動詞法	13	30%	17	81%
	合計	44	100%	21	100%
TWC	名詞用法	92,960	80%	21,299	20%
	漢語サ変動詞法	23,160	20%	85,117	80%
	合計	116,120	100%	106,416	100%

表2に示されているように、両コーパスにおいて、「準備」は名詞用法を中心に運用されているのに対して、「用意」は漢語サ変動詞用法を中心に運用されていることが分かる。

具体的には、「準備」はJ-TOCCにおいて、70%は名詞用法で使われているのに対して、30%は漢語サ変動詞用法で使われている。この点はTWCにおいても同じ傾向を示しており、80%は名詞用法で使われているのに対して、20%は漢語サ変動詞用法で使われている。

一方、「用意」はJ-TOCCにおいて、81%は漢語サ変動詞用法で運用されているのに対して、19%は名詞用法で運用されている。また、TWCにおいても、基本的に同じ傾向であり、80%は漢語サ変動詞用法で使われているのに対して、20%は名詞用法で使用されている。つまり、「準備」と「用意」は類義語同士であるが、名詞用法と漢語サ変動詞用法の使用実態が異なると言える。

上記の結果をまとめると次のようになる。

(20) 名詞用法においては、「用意」より「準備」の方が多く使用される。

(21) 漢語サ変動詞用法においては、「準備」より「用意」の方が多く使用される。

以下では、この偏りに基づき分析を展開する。具体的には、5節において、「準備」と「用意」について名詞用法と漢語サ変動詞用法に分け、それぞれの意味的特徴について分析を行う。その後6節では、「準備」と「用意」の話題的特徴について分析を行う。

5. J-TOCCとTWCにおける「準備」と「用意」の意味的特徴

本節では、J-TOCCとTWCを利用し、名詞用法における「ノ格」の名詞と漢語サ変動詞用法における「ヲ格」の名詞に着目し、「準備」と「用意」がそれぞれどのような名詞を取るかを分析し、その意味的特徴を明らかにする。

5.1 名詞用法としてのふるまい

まず、名詞用法として使用される際の「準備」と「用意」の特徴を分析する。具体的には、名詞用法において、「名詞+の+準備」及び「名詞+の+用意」の「ノ格」の名詞に着目して、両者はどのような名詞と共起しやすいのかについてまとめる。

5.1.1 J-TOCCの分析

J-TOCCを用いて検索した結果、「準備」は46例、「用意」は22例を抽出した。そこから、「よ

「準備」と「用意」の使い分けについて

ういるわ」のような分析対象にならない用例や「下準備」のような複合名詞の用例を除き、最終的に、「準備」は44例、「用意」は21例を分析対象にした。そのうち、名詞用法としての「準備」は31例出現していたのに対して、「用意」は4例しか出現していなかった。そのため、ここでは、準備を中心に分析する。「用意」はJ-TOCCにおいて名詞用法の用例数が少ないため、次節でTWCを利用して補う。なお、J-TOCCは大学生の会話を話題別に収録したものであり、省略が多いため、「ノ格」を観察するために、文脈情報を利用して「ノ格」を定めた。結果を次の表3に示す。

表3 J-TOCCにおける「準備」の「ノ格」名詞及び出現数

「ノ格」	用例数	「ノ格」	用例数	「ノ格」	用例数
授業	10	地球温暖化	1	診査	1
旅行	4	冬	1	卒業式	1
お祭り	1	給食	1	たたき	1
お葬式	1	就活	1	デザート	1
セッティング	1	書道展	1	朝ごはん	1
体	1	外出	1	雪	1
部屋をぐちゃぐちゃにすること	1				

表3が示しているように、「準備」の「ノ格」で表示される名詞には、「体」「デザート」と「朝ごはん」の3例を除いた残り28例は全てデキゴトを表す名詞である。

このことから、「準備」は名詞用法において、デキゴト名詞と共起する傾向があることが観察される。

5.1.2 TWCの分析

次に、データ量が確保できるTWCを用いて、「名詞+の+準備」及び「名詞+の+用意」の特徴を見ていく。

NLTを利用してMI降順で頻度30以上の条件で検索した結果、「名詞+の+準備」のパターンは合計107種類があるのに対して、「名詞+の+用意」のパターンは合計5種類しかなかった。これは4節で述べた「用意」は漢語サ変動詞用法を中心に使用されていることに関わっていると考えられる。なお、できる限り網羅的に特徴を探るために、ここでは、「名詞+の+用意」のパターンにおいて、MI降順で頻度10以上に設定し、合計27種類を抽出した。まず、「準備」のみ共起する名詞に着目する。

「準備」にのみ共起する名詞の種類は「万全」「それなり」等副詞にあたるパターンを分析対象から除外した結果、81種類が確認された。ここでは、その中で上位20位を取り上げる。詳細は次の表4の通りである。

表4 TWCにおける「準備」のみと共起する「ノ格」名詞

コロケーション	頻度	MI ↓	コロケーション	頻度	MI ↓
旅立ち	30	10.52	祭り	120	7.49
田植え	38	8.96	発送	75	7.47
結婚式	174	8.85	開業	44	7.18
引っ越し	136	8.48	留学	84	7.09
事前	538	8.47	用品	35	7.00
プレゼン	33	8.44	行事	62	6.85
プレゼンテーション	49	8.36	パーティー	50	6.82
葬式	41	8.33	設立	60	6.71
葬儀	124	8.20	復帰	30	6.68
老後	54	8.03	受験	128	6.64

表4に示されている20種類のうち、「用品の準備」を除いた残りの19種類はいずれもデキゴト名詞と共起している。この事実はJ-TOCCの結果と同様の傾向である。それを踏まえ、本稿では、名詞用法において「準備」はデキゴト名詞と共起することが本質的な特徴であると主張する。

次に、抽出したデータから「用意」のみに共起する名詞に着目する。詳しくは次の表5の通りである。

表5 TWCにおける「用意」のみと共起する「ノ格」名詞

コロケーション	頻度	MI ↓	コロケーション	頻度	MI ↓
雨具	13	12.67	酒	15	5.88
小銭	10	11.25	支援	11	4.58
着替え	13	10.34	場所	12	4.33
飲み物	12	9.20	車	12	4.33
弁当	20	9.07	金	13	4.22
お茶	31	9.01	水	12	4.19
メモ	18	8.93			

表5から分かるように、「用意」のみと共起している名詞は13種類確認される。その中で「支援」を除いた残り12種類はいずれもモノを表す名詞であり、デキゴト名詞と共起する「準備」とは対照的である。それを踏まえ、本稿では、名詞用法において「用意」はモノ名詞と共起することが本質的な特徴であると主張する。

最後に、MIスコア降順、頻度30以上の条件で、「準備」と「用意」の両方と共起する名詞を見ていく。詳しくは次の通りである。

表6 TWCにおける「準備」と「用意」の両方と共起する「ノ格」名詞

準備	頻度	MI	用意	頻度	MI ↓
朝食	128	8.74	朝食	52	10.65
食事	449	7.68	食事	336	10.47
夕食	277	9.81	夕食	38	10.15
御飯	70	6.50	御飯	64	9.58

「準備」と「用意」の使い分けについて

「準備」と「用意」の両方と共起する「ノ格」で表示される名詞には、「朝食」「食事」「夕食」「ご飯」の4種類が確認される。この4種類に共通するのは、いずれもデキゴト名詞とモノ名詞の両方に捉えられる名詞であるということである。そのため「準備」と「用意」の両方と共起するのだと考えられる。以下、当該の名詞がデキゴト名詞とモノ名詞の両方として捉えられていることを例文で示す。

(22) しばらく眺めてからベンチに荷物を置き、朝食の用意。

(URL: <http://ishihara-yama.com/ooyama151011.html>)

(23) 外が薄明るくなり始めると僕たちは車のシュラフから抜け出し朝食の準備を始める。

(溪流昔の話 URL: <http://homepage2.nifty.com/k-doji/kei-old.html>)

(24) 未だ面白い事がたくさんあります。私は今日も元気で楽しく明るく暮らしています。今から食事の準備です。遅くなってしまいましたから、今日はこれで終わります。

(戸倉たか子民主党社民党犯罪「名誉毀損犯Nの初公判」成田悦子清う湖の朝 /
ウェブリブログ URL: http://kyoukonoasa.at.webry.info/201104/article_3.html)

(25) 夕方について、ジェンベを鳴らし、食事の用意。

(よ〜へい日記: 岐阜に行ってきました。 - livedoor Blog (ブログ)
URL: <http://blog.livedoor.jp/yoheyyoheyyohey/archives/52207081.html>)

(26) 講義のない日は、夕食の用意をして、食事が終わり、後片づけをすともう9時過ぎです。

(40歳を過ぎて一念発起し、受験勉強開始、開業後、成年後見を中心に地域社会に貢献 |
伊藤塾 URL: http://www.itojuku.co.jp/voice/jitsumu/shihoshoshi/message_fujie/index.html)

(27) テントに戻って夕食の準備をする。

(「黒部川下の廊下と水平歩道」劇場
URL: http://outdoorsite.biz/mountain/shimono_rouka/shimono_rouka.html)

(28) ご飯の用意をしているとすぐに草太くん、夢ちゃんが来ました。

(北九州エリアの様子 URL: <http://faha.biz/newpage654.html>)

(29) 掃除が終わると、やっとの思いでご飯の準備に取り掛かることができた。

(家族の一員
URL: <http://rm47g.cetasika.jp/Novel/VerOmission/CE00001S.html>)

以上の例文からも分かるように、「朝食」「食事」「夕食」「ご飯」の4つの「ノ格」で表示されている名詞は「準備」と「用意」の両方と共起している。また、文脈を確認すると、これらの名詞はデキゴトとモノの両方として捉えられている。それに加えて、「準備」と「用意」は上記の例文においては置き換えが可能である。

以上の分析から、「準備」と「用意」において、名詞用法として使用される際の特徴を以下のよう

- (30) 名詞用法において「準備」は、デキゴト名詞と共起することが特徴である。
- (31) 名詞用法において「用意」は、モノ名詞と共起することが特徴である。
- (32) デキゴト名詞、モノ名詞のどちらにも捉えられる名詞の場合は「準備」と「用意」の両方と共起可能である。

5.2 漢語サ変動詞用法としてのふるまい

この節では、漢語サ変動詞用法として使用される際の「準備」と「用意」の特徴を分析する。ここでは漢語サ変動詞において、「名詞+を+準備する」「名詞+を+用意する」の「ヲ格」で表示される名詞に着目して、両者がどのような名詞と共起しやすいのかについて分析を行い、その意味的特徴についてまとめる。

5.2.1 J-TOCC の分析

J-TOCCにおいて、漢語サ変動詞用法としての「用意」は17例(81%)確認された。ただし、そのうち1例は、文脈情報を参照してもヲ格名詞が判定できなかったため分析対象から除外し、最終的に16例を分析対象とした。なお、漢語サ変動詞用法としての「準備」は用例が少ないため、5.2.2節でTWCを利用して補完する。そのため、ここでは、「用意」を中心に分析する。前節でも述べたが、J-TOCCは大学生の会話を話題別に収録したものであり、省略が多いため、「ヲ格」を観察するにあたっては文脈情報を利用して「ヲ格」を定めた。その結果は次の表7の通りである。

表7 J-TOCCにおける「用意する」と共起する「ヲ格」名詞及び出現数

ヲ格	用例数	ヲ格	用例数	ヲ格	用例数
シャツ	2	チョコレート	1	ホテル代	1
お金	1	テーブル	1	もの	1
ガソリン	1	食材	1	ルンバ	1
御飯	1	フリップ	1	別荘	1
ジーンズ	1	ホテル	1	珠玉の一枚	1

表7を確認すると、「用意」の「ヲ格」に表示される名詞には、モノ名詞とデキゴト名詞の両方に捉えられる「御飯」を除外すると、残りの15例はいずれもモノを表す名詞であることが見られる。つまり、J-TOCCにおいて、「用意」はモノ名詞と共起する傾向があることがわかる。以下用例を示す。

- (33) いやでもな、そういうときのために、珠玉⁽⁶⁾の、なんか、1枚をね、用意しとけばまあええやろう。

(ファッション 東日本 男男 E-120-02)

- (34) それと、ホテル代、用意したら、もう、三重、完璧やねん。

(旅行 西日本 男男 W-117-03)

(33)において「用意」は「珠玉の一枚」と共起しており、また(34)において「用意」は「ホテル代」と共起している。この両者はいずれもモノ名詞である。それゆえに、「用意」は漢語サ変動詞用法においても、名詞用法と同じくモノ名詞と共起することが特徴であると言える。しかしな

「準備」と「用意」の使い分けについて

がら用例が少ないため、TWC を利用して同様の結果が出るのか検証していく。

5.2.2 TWC の分析

本節では、データ量が確保できる TWC を用いて、「名詞+を+準備する」と「名詞+を+用意する」の特徴を見ていく。まず、NLT を利用して MI 降順で頻度 30 以上の条件で検索した結果、「名詞+を+準備する」のパターンにおいて、合計 32 種類の名詞しかないのに対して、「名詞+を+用意する」のパターンでは、合計 237 種類の名詞もあることが確認された。この結果は、4 節で述べたように、漢語サ変動詞用法においては「用意する」が中心に使用されていることと関わっていると考えられる。

それに加えて、「準備する」のみと共起する「ヲ格」で表示される名詞は 1 例も確認されなかった⁽⁷⁾。このことは、漢語サ変動詞として使用される際に、「準備する」と共起できる「ヲ格」で表示される名詞は基本的に「用意」とも共起できるということを示している。

次に、「用意する」のみと共起する「ヲ格」で表示される名詞に着目する。なお、「用意する」のみと共起する名詞は 205 種類があるが、ここでは、上位 20 位を取り上げる。具体的には、以下の表 8 の通りである。

表 8 TWC における「用意する」のみと共起する「ヲ格」名詞

コロケーション	頻度	MI ↓	コロケーション	頻度	MI ↓
逃げ道	42	10.00	テンプレート	60	8.21
小銭	58	9.62	飲み物	107	8.20
頭金	48	9.00	プラン	558	8.12
特典	248	8.96	バリエーション	74	8.07
着替え	76	8.72	メニュー	529	8.05
ラインアップ	72	8.72	個室	75	7.88
雛形	30	8.53	バナー	30	7.79
サプライズ	31	8.35	封筒	51	7.46
カリキュラム	204	8.33	賞品	34	7.36
プレゼント	237	8.23	車椅子	45	7.34

表 8 が示している 20 種類のうち、「サプライズ」を除いた残り 19 例はモノ名詞で 95% を占めており、J-TOCC と同じ傾向が見られた。即ち、「用意する」はモノ名詞と共起する傾向があることが TWC においても実証されたと言える。

次に、「準備する」と「用意する」の両方と共起する「ヲ格」で表示される名詞の上位 20 位に着目する。

表9 TWCにおける「準備する」と「用意する」の両方と共起する「ヲ格」名詞

準備	頻度	MI ↓	用意	頻度	MI
資金	299	8.49	資金	253	6.04
書類	183	8.30	書類	323	6.91
教材	44	7.37	教材	89	6.18
資料	192	7.36	資料	491	6.51
道具	43	7.36	道具	87	6.17
材料	43	6.54	材料	112	5.71
プログラム	67	6.50	プログラム	567	7.37
食事	45	5.62	食事	286	6.08
策	35	6.58	策	63	5.22
機器	33	6.01	機器	56	4.57
体制	48	5.97	体制	60	4.08
手段	31	5.73	手段	103	5.25
回答	34	5.67	回答	90	4.86
お金	56	5.58	お金	202	5.22
費用	40	5.20	費用	68	3.76
書	103	5.12	書	340	4.64
金	96	5.15	金	273	4.45
対策	45	4.88	対策	34	2.26
環境	103	4.85	環境	465	4.82

表9から確認できることは、「準備する」と「用意する」は共にモノ名詞と共起する傾向があるということである。具体的には、表9が示すように、「プログラム」「食事」「回答」の3種類を除いた17種類（85%）がモノ名詞である。このことから、漢語サ変動詞用法において、「準備する」と「用意する」はいずれもモノ名詞と共起する傾向があると言える。

以上の分析を踏まえ、「準備」と「用意」について、漢語サ変動詞用法として使用される際の特徴を以下のようにまとめる。

(35) 「準備する」と「用意する」はいずれもモノ名詞を取る傾向がある。

6. J-TOCCにおける「準備」と「用意」の話題的特徴

5節では、「準備」と「用意」について、名詞用法と漢語サ変動詞用法に分けた上で、それぞれの運用実態を明らかにした。それでは、5節で明らかにしたことと、「準備」と「用意」の話題的特徴との間に関係はあるのであろうか。この節では、J-TOCCにおける検索結果を利用して、話題の観点から「準備」と「用意」の特徴をまとめる。なお、J-TOCCから得られた用例数では、名詞用法と漢語サ変動詞用法に分けた場合に分析に耐えうる数量に達していない。そのため、ここでは名詞用法と漢語サ変動詞用法を分けずに分析を行う。

J-TOCCの15話題における「準備」と「用意」の出現数は次の表10の通りである。

「準備」と「用意」の使い分けについて

表 10 J-TOCC における「準備」と「用意」の話題別出現数

話題	準備				用意			
	名詞用法		漢語サ変動詞用法		名詞用法		漢語サ変動詞用法	
01 食べること	0	0%	1	2%	1	5%	0	0%
02 ファッション	0	0%	0	0%	0	0%	3	14%
03 旅行	5	11%	4	9%	1	5%	2	10%
04 スポーツ	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
05 マンガ・ゲーム	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
06 家事	1	2%	5	11%	1	5%	4	19%
07 学校	2	5%	0	0%	0	0%	3	14%
08 スマートフォン	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
09 アルバイト	17	39%	0	0%	0	0%	1	5%
10 動物	1	2%	0	0%	0	0%	1	5%
11 天気	3	7%	0	0%	0	0%	1	5%
12 夢・将来設計	1	2%	0	0%	0	0%	0	0%
13 マナー	0	0%	1	2%	0	0%	0	0%
14 住環境	1	2%	0	0%	0	0%	1	5%
15 日本の未来	0	0%	1	2%	1	5%	1	5%
合計	31	70%	13	30%	4	19%	17	81%

まず、「準備」の話題的特徴について述べる。

「準備」の各話題における出現率を観察すると、「アルバイト」の話題における出現数が 17 例 (39%) であり、ほかの話題より顕著に多く出現していることが分かる。それに対して、「用意」は 1 例しか出現していない。このことから、「準備」は「アルバイト」の話題においてよく用いられることが分かる。

それではなぜ「準備」は「アルバイト」の話題に多く出現したのであろうか。この点に関しては、5.1 節で明らかにしたように、「準備」の名詞用法が「デキゴト名詞」と共起しやすいことに関わっていると予想される。具体的には、表 10 に示したように、「アルバイト」の話題において、「準備」の 17 例は全て名詞用法で出現している。名詞用法においては、「準備」は「デキゴト名詞」と「用意」は「モノ名詞」と共起しやすいという特徴を持っていた。この点を踏まえると、「アルバイト」という話題は、他の話題に比べて「デキゴト名詞」が多用される話題である可能性が想定される。

これについて、「デキゴト名詞」はその多くが漢語サ変動詞用法を持つことを利用し、「J-TOCC 語彙表」を用いて、全 15 話題における「名詞 - 普通名詞 - サ変可能」の割合について、異なり語数と述べ語数を調べてみた。その結果が次の表 11 である。

表11 J-TOCC 15 話題における「名詞－普通名詞－サ変可能」の異なり及び延べ語数

話題	異なり語数	延べ語数	話題	異なり語数	延べ語数
食べること	375	2,088	アルバイト	565	3,861
ファッション	396	1,634	動物	455	1,503
旅行	452	2,842	天気	447	1,900
スポーツ	518	3,869	夢・将来設計	513	3,464
マンガ・ゲーム	531	2,321	マナー	380	2,055
家事	446	4,450	住環境	384	1,668
学校	529	2,853	日本の未来	569	2,774
スマートフォン	537	2,575			

表11において、「アルバイト」の話題に出現している「名詞－普通名詞－サ変可能」の異なり語数は565語であり、全15話題において2位に位置している。また、延べ語数については、3,861語出現しており、「家事」、「スポーツ」の話題に次ぐ3位に位置している。このことから、「アルバイト」の話題においては「名詞－普通名詞－サ変可能」が、述べ語数、異なり語数共に、他の話題と比較して多く出現していることが分かる。

異なり語数が多いことは当該の話題において多様な「名詞－普通名詞－サ変可能」が使われていることを表す。また、延べ語数が多いことは当該の話題において「名詞－普通名詞－サ変可能」が頻繁に使用されていることを表す。つまり、異なり語数と延べ語数が他の話題と比べて比較的多い「アルバイト」の話題においては、「名詞－普通名詞－サ変可能」が多様かつ頻繁に使用される話題であると言え、そのことが名詞用法における「準備」の使用が促進される一つの要因として働いたのではないかと考えられる。

以下、「アルバイト」の話題において出現していた「準備」の用例を挙げる。

- (36) E-312-1F：もう、9月の段階で、冬の準備、始まっているわけよ。
(アルバイト 東日本 女女 E-312-09)
- (37) W-320-2F：え、何かでもな、セッティングの準備とか、案内とかって書いてあった。
(アルバイト 西日本 女女 W-320-09)
- (38) W-311-1F：そう。とか、一番きつかったんが、書道展の準備で。
(アルバイト 西日本 女女 W-311-09)

次に、「用意」の話題的特徴について述べる。

「用意」の各話題における出現率を観察すると、15話題中、10話題に出現しており、「準備」とは異なり、ある話題に突出した使用が見られるわけではなく、比較的広い話題で使われていることが分かる。また、この傾向はTWCにおける結果からも支持されると思われる。具体的には、「用意」の漢語サ変動詞用法に共起する「ヲ格」名詞について示した表8に示しているように「用意する」のみに共起する、上位に位置する名詞の話題は多岐にわたっており、特徴的な話題を抽出することは難しい。だが、この事実は裏を返せば、「用意する」がそれだけ、話題という点において汎用性の高い表現であることを示唆するものであると考えられる。

以上の分析に基づき、「準備」と「用意」の話題的特徴を以下のようにまとめる。

「準備」と「用意」の使い分けについて

(39)「準備」は「アルバイト」の話題においてよく用いられる。

(40)「用意」は比較的広い話題で用いられる。

7. まとめと今後の課題

本稿では J-TOCC と TWC を利用して、名詞用法と漢語サ変動詞用法に分けた上で、「準備」と「用意」の意味的特徴と話題的特徴を明らかにした。その結果は以下の通りである。

RQ 1: 名詞用法における「準備」と「用意」について、「ノ格」にどのような名詞を取るのか、コーパスを用いた量的な観点から意味的特徴を明らかにする。

(41) 名詞用法においては「準備」が中心に用いられる。名詞用法においては「準備」はデキゴト名詞と共起する傾向があるのに対し、「用意」はモノ名詞と共起する傾向がある。

RQ 2: 漢語サ変動詞用法における「準備」と「用意」について、「ヲ格」にどのような名詞を取るのか、コーパスを用いた量的な観点から意味的特徴を明らかにする。

(42) 漢語サ変動詞用法においては「用意」が中心に用いられる。漢語サ変動詞用法においては、「準備」も「用意」も共に「モノ名詞」と共起する傾向がある。

RQ 3: 「準備」と「用意」において、特定の話題に出現しやすい傾向はあるのか、J-TOCC を用いて、両者の話題的特徴を明らかにする。

(43) 「準備」は「アルバイト」の話題に多く使用される特徴を持つのに対して、「用意」は比較的広い話題で使われる特徴を持つ。

最後に、「準備」と「用意」の使い分けについての教え方を提案する。

表 12 「準備」と「用意」の使い分け基準

漢語サ変動詞用法	名詞用法	
	用意する	デキゴト名詞
	モノ名詞	～の用意

表 12 について説明する。

最初に、学習者に「準備」と「用意」を導入するにあたって、各々の用法を「名詞用法」と「漢語サ変動詞用法」に分ける。その上で、漢語サ変動詞用法の場合は、その運用実態を鑑みて、「用意する」のみを導入する。それに対して、名詞用法の場合については、その運用実態を鑑みて、まずは「準備」のみを導入し、その後、「用意」を導入するという段階的な導入をはかる。そして「用意」を導入した段階で、「デキゴト名詞」の場合は「準備」を、「モノ名詞」の場合は「用意」を使用することを説明する。このような導入をはかることによって、冒頭に掲げたような、日本語として不自然、あるいは座りの悪い例を学習者が産出することを防ぐことができると考えられる。

今後の課題として、3点を挙げる。

まず、今回の研究は「準備」と「用意」の共起関係に着目し、特に「ノ格」と「ヲ格」を中心に

分析したが、他のコロケーションや複合名詞などにも着目して両者の全体像を描く必要がある。

次に、今回は「準備」と「用意」を取り上げて分析したが、同じ意味を表す実質語には「支度」や「備え／備える」等もある。今回の分析を足掛かりにして、「前もって整える」という意味での実質語の記述を広げていくことができると考えられる。

最後に、日本語学習者の母語を考慮した使い分け規則の構築を試みたい。

具体的には、本稿における「準備」と「用意」をめぐる使い分けの提案は、日本語の規則として導かれたものであって、そこに学習者の母語という変数は考慮されていない。しかし、学習者の習得上の負担を減らすことを考える上では、学習者の母語という変数を無視することはできない。特に、2節冒頭でも述べたが、中国語においては日本語の「準備」と「用意」に対応する形式は「准备」の一つだけである。そのため、中国語を母語とする学習者にとって、両者を使い分けるのは簡単なことではないことが窺える。本稿冒頭に掲げた(1)と(2)の中国語話者の誤用例もこの事実を裏付けるものであると考えられる。それに加え、白川(2002)では、学習者の視点に立った記述研究を志向するために、対照研究の方法を駆使して、記述の「勘どころ」を見つけることが必要であると述べている。そのため、今後は中国語をはじめ、日本語と対照することにより、学者者の母語を踏まえた説明規則に関しても別途その構築を試みていきたい。

〔注〕

- (1) 確認した9冊の辞書は日本大辞典刊行会(編)(1976)『日本語大辞典』, 新村出(編)(2008)『広辞苑 第六版』, 松村明(編)(1995)『大辞林 第二版』, 尚学図書・言語研究所(編)(1995)『国語大辞典(新装版)』, 梅棹・金田・坂倉・日野原(監修)(1989)『カラー版 日本語大辞典』, 松村・山口・和田(編)(1988)『国語辞典〔大活字版〕』, 山田・柴田(編)(2011)『新明解国語辞典 第七版』, 金田・池田(編)(1986)『学研国語大辞典』, 西尾・西淵・水谷(編)(1994)『国語辞典 デスク版』である。この中では、山田・柴田(編)(2011)『新明解国語辞典 第七版』のみが循環的意味記述になっておらず、残った8冊がいずれも循環的意味記述になっている部分があることが確認される。
- (2) 中俣(2021a, p.6)は、「類義語の意味を考える時も、コーパスから得られる大量の用法に目を通すことで、有益なヒントを得られることができる」と述べている。そのため、類義語の問題を考える際に、コーパスを利用した計量的な分析手法はより効果的であると考えられる。
- (3) 「grep 検索」とは、Unixなどのオペレーティングシステム(OS)のコマンドで、「全体から(Global) 正規表現(Regular Expression)に一致する行を表示(Print)する」というその名の由来のとおり、文字列を複数ファイルから検索するという手法である。
- (4) NLTの検索結果については、「準備」と「用意」の名詞用法と漢語サ変動詞用法を分けて検索を行ったためここでの説明を省略する。詳しくは5.1節及び5.2節を参照のこと。
- (5) 今井(2019)では、MIとLDは同じく共起語の結びつきの強さを表す指標であるが、LDは特徴のある組み合わせを強調するという点でMIに劣るものの、頻度の影響を受けにくい、より安定した指標であると指摘している。本稿では、特徴的なコロケーションを分析することで意味特徴をまとめるという理由でMIを採用した。なお、頻度の影響について頻度を30、もしくは20、10以上に設定することで、頻度からの影響が避けられると考えられる。
- (6) ~~~~は「準備」や「用意」の「ノ格」で表示される名詞を文脈に基づき定めたものである。
- (7) 頻度30以上では、「保障」と「計画」が「準備する」のみと共起しているが、頻度10以上に設定すると、「用意する」とも共起している。そのため、「準備」のみと共起するとは言い難い。それゆえに、「保障」と「計画」が「準備する」のみと共起している名詞と見なすことが

「準備」と「用意」の使い分けについて

できないと考えられる。

参考文献

- 今井新悟 (2019) 「コーパスの日本語テストへの応用」 プラシャント・パルデシ・靄山洋介・砂川有里子・今井新悟・今村泰也 (編) 『多義語動詞分析の新展開と日本語教育への応用』 p.158-173 開拓社
- 久保圭 (2012) 「類義語を共起関係から紐解く：コーパス分析を用いた指導の有用性」 『大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究』 12：23-31
- 国際交流基金 (2022) 「2021 年度海外日本語調査概要」 独立行政法人国際交流基金
- 国際交流基金・財団法人日本国際教育協会 (2002) (編) 『日本語能力試験出題基準 改定版』
- 白川博之 (2002) 「記述的研究と日本語教育—「語学的研究」の必要性と可能性」 『日本語文法』 2 (2)：62-80 日本語文法学会
- 薛秋昌・連永平 (2010) 「「準備」, 「用意」和「支度」」 『考試週刊』 15：29-30
- 田忠魁・泉原省二・金相順 (編) (1998) 『類義語使い分け辞典』 p. 403-404 研究社
- 陶魏青 (2011) 「浅析「用意」「準備」「支度」的異同」 『考試週刊』 83：93-94
- 徳川宗賢・宮島達夫 (編) (1972) 『類義語辞典』 p. 405 東京堂出版
- 中俣尚己 (2021a) 『中納言を活用したコーパス日本語学研究入門』 p.6 ひつじ書房
- 中俣尚己 (2021b) 「日本語話題別会話コーパス：J-TOCC 解説資料 (<http://nakamata.info/database/>) 最終閲覧日 2023 年 10 月 16 日
- 中俣尚己・太田陽子・加藤恵梨・澤田浩子・清水由貴子・森篤嗣 (2021) 「『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC』」 『計量国語学』 33 (1)：11-21 計量国語学会
- 中俣尚己・麻子軒 (2022) 「『日本語話題別会話コーパス：J-TOCC 語彙表』の公開と日本語教育むけ情報サイトにむけた指標の検討」 言語資源ワークショップ 2022 発表論文集
- 橋本直幸 (2018) 「語彙習得を促す「話題別読解」の提案」 岩田一成 (編) 『語から始まる教材作り』 p.31-44 くろしお出版
- 傅秀娟 (2011) 「日語中「準備」「用意」「支度」の詞義弁析」 『考試週刊』 47：99-100
- 山内博之 (2018) 「話題による日本語教育の見取り図」 岩田一成 (編) 『語から始まる教材づくり』 p. 3-15 くろしお出版
- 類義語研究会 (編) (1991) 『似た言葉使い分け辞典』 p. 528-529 創拓社

WEB 検索ツール

- 筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所 『NINJAL-LWP for TWC』
(<https://tsukubawebcorpus.jp>) 最終閲覧日 2023 年 5 月 21 日
- 日本語学習辞書支援グループ (2015) 『日本語教育語彙表 Ver 2.8.3』
(<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/>) 最終閲覧日 2023 年 3 月 16 日

Usage of “Junbi” and “Youi”

An Rong

University of East Asia • Graduate School of Comprehensive Scientific Research •
Human Sciences
China • Xianyang Normal University
anrong16@hotmail.com

<Abstract>

In Japanese language education, the two synonymous terms “junbi” and “youi” are both positioned at the Level 3 in the old Japanese Language Proficiency Test and are primarily introduced in the early intermediate stage. As a result, learners are likely to learn both at the same time, potentially causing confusion about their usage. Moreover, in dictionary entries, there are parts where the descriptions of “junbi” and “youi” are circular, so it can be said that sufficient information about their usage distinctions that Japanese language learners need is not adequately provided.

In this paper, we used the “Japanese Topic-based Conversation Corpus: J-TOCC” and the “Tsukuba Web Corpus (TWC)” to reveal the topical and semantic features of “junbi” and “youi” in order to clarify their usage rules. As a result, firstly, regarding semantic features, it was revealed that ① “Junbi” is mainly used in noun usage, while “youi” is mainly used in Sino-Japanese verbal noun usage, ② In noun usage, “junbi” tends to take event nouns in the “no-case”, while “youi” tends to take thing nouns in the “no-case”, and ③ In the usage of Sino-Japanese verbal nouns, both “junbi” and “youi” tend to take thing nouns in the “wo-case”. Secondly, in terms of topical features, it was revealed that ① “Junbi” is used more frequently in the topic of “part-time jobs” than “youi”, and ② “Youi” is used in a wide range of topics.

Keywords:

Junbi, Youi, Noun usage, Verb usage, Distinction in usage